

日月神示

(111)

日月の巻(第三十四帖)

『どうしたらお国の為になるので、自分はどうしたら好いのぞと取次にきく人 沢山出て来るなれど、この神示読めば、どうしたらよいか判るのぞ。その人相当にとれるのぞ。神示読んで読んで腹に入れてもう分らぬと云うことないのぞ。分らねば神知らずと申してあろうがな。迷うのは神示読まぬからぞ。腹に入れておらぬからぞ。人が悪く思へたり、悪くうつるのは己が曇りてゐるからぞ。』

雨の巻(第十五帖)

『神前に向つて大きくキを吸ひ肚に入れて下座に向つて吐き出せよ、八度繰り返せよ、神のキ頂くのぞ。』

白銀の巻(第二帖)

竜神と申してゐるが竜神にも二通りあるぞ。地からの竜神は進化して行くのであるぞ。進化をうそぞと思ふは神様迷信ぞ。一方、天からの竜神は退化して行くのであるぞ。この二つの竜神が結ばれて人間となるのであるぞ。人間は土でつくつて、神の氣入れてつくつたのぞと申してあろうがな。』

春の巻(第十三帖)

『自分はよいが、世の中が悪いのぢやと申しているが、その自分省みよ。自分が神の理みちにあり真実であるならば、世の中は悪くないぞ。輝いでいるぞ。自分にふりかかつて来る一切のものは最善のものと思へ。如何なる悪いこともそれは最善のものであるぞ。この道理よくわきまへて下されよ。真の神を理解すれば、一切の幸福得られるのぢや。世を呪ふことは自分を呪ふこと、世間や他人を恨むことは自分を恨むこと。このこと悟れば一切はそこからひらけるぞ。十のものを受けるには十の努力。』

補巻 月光の巻(第三十一帖)

『一切が自分であるぞと云うことは例へでないぞ。そなたは、食物は自分でないと思うてゐるが、食べるとすぐ自分となるでないか。空気も同様、水も同様ぞ。火も同様、大空もそなたぞ。山も川も野も海も、植物も動物も同様ぞ。人間は横の自分ぞ。神は縦の自分ぞ、自分を見極めねばならん。自分をおろそかにしてはならん。一切をうけ入れねばならんぞ。一切に向つて感謝しなければならんと思つてあろうが。』

(第五十二帖)

『我を、大き我に昇華させよ。大我にとけ入らねばならん。大我にとけ入ったとて、小我がなくなるのではないぞ。人おろがめよ。物おろがめよ。おろがむと自分の喜びとなり、拝まれたもの

も喜びとなるぞ。うれしうれしとはそのことぞ。』